

和し鍛え学ぶ

明日はいよいよ体育祭です。体育祭特別日課はわずか2週間。その中で生徒たちは最大限時間を使って学年演技や種目、係の活動などの準備を進めてきました。今日は体育祭前日の最後の学年練習がありました。天気が心配されましたが、徐々に予報も雨から曇りへと変わり、予定通り明日実施できそうです。

秋から音楽フェスティバル、そして体育祭と大きな行事が続き、その中で生徒たちは学年学級の和を育ててきました。それぞれの思いがある中で一つのことに向かっていくのは、言葉で言うほど簡単なことではありません。しかし、行事を通じて確かな何かを手にすることができたのではないかと思います。

保護者の皆様、明日はぜひ学校にお越しいただき、生徒たちが躍動する姿や成長した姿、仲間とともに頑張る姿に声援を送ってくださるとうれしく感じます。

生徒の皆さん、明日の体育祭、皆さんの頑張る姿を楽しみにしています。心に残る体育祭にできるよう、真剣に楽しく、感動あふれる体育祭にしましょう！



明日はいよいよ体育祭です

体育祭練習が本格的に始まった10月中旬のある日、私は運動場でソーランを練習する3年生の姿を見ていました。夏休み前から先生たちが40回生のために時間をかけて振付を考えていることは知っていましたし、生徒たちが9月から自主的に教室で練習を始める姿も見ていました。

その日の運動場、まだ前半までしか全体の動きが合わせられていない段階のソーランでしたが、曲に合わせて踊る40回生の姿に、私は卒業した39回生の姿が重なって見えました。伝統とはそういうことではないかと私はその時に改めて思いました。今年度、最高学年としてソーランに取り組む40回生たちは、きっと、昨年見た先輩たちの姿が鮮明に記憶に残り続けていたことだと思います。

今年の40回生たちは「証」を学年スローガンにして、様々な場面で「証を残そう」と頑張ってきました。40回生のその姿はきっと後輩の心に残り続けて、今の2年生が3年生になった時に、目指すべき姿、最高学年としてあるべき姿として思い出されるはずです。伝統とはそうしたも



のであり、最高学年が卒業したあとにも後輩の心に残り続け、影響を与える、後輩を育てるもの、それが本当に価値のある伝統だと思います。

そんなことを、私はここ数日、40回生の演技がどんどん良くなっていくのを見ながら考えていたのですが、今日の3時間目に3年生が最後の学年練習でソーランを踊り終えた時に、3年生の酒井先生が同じように「伝統」について生徒たちに話しました。「今日、こうやって演技ができるまでには、修学旅行翌日から朝も夜も昼間も、みんなは知らないかも知れないけれど、時間があるだけ使って振付を考えてくれた先生たちがいます。自分は、初めて末中でソーランの演技を見たときにびっくりしました。地域の人、お家の方、先輩たち、いろんな人のおかげで末中の伝統として続いてきたものを、みんなは受け継いでいく責任があります。伝統を大切に、そして伝説を残してください」そんな語り掛けに、生徒たちはじっと真剣に耳を傾け、心で受け止めている様子でした。

40回生の皆さん、当日の演技は4分程度です。その短い時間に、今まで仲間や先生たちと取り組んできた時間や40回生の思いを凝縮させ、余すことなく演技に込めてください。

41回生の皆さん、先輩の姿を目に焼き付け、体育祭のバトンをしっかりと先輩から受け取ってください。それが41回生としての務めです。そして、学年の演技は思いっきり、空に7色のフラッグをはためかせてください。みんなで運動場に大きな虹をかけてください。期待しています。

42回生の皆さん、初めての中学校の体育祭を心から楽しんでください。学級の仲間とともに声がかかるまで掛け声を合わせて、長縄とびやリレー、応援などで今までの取組を発揮してください。明日の体育祭、皆さんが頑張る姿を楽しみにしています。がんばりましょう！

